21. 最近の痴呆の分類と治療－老年痴呆からびまん性レビー小体病まで－

池田智昭（茂原神経科）
小阪憲司（横浜市立大）
佐藤甫夫　　（千大）

「老年痴呆」の概念の変遷及びびまん性レビー小体病（DLBD）に対するdonepezilの幻視抑制効果について述べた。老年期にみられる痴呆を含めた精神障害をアルツハイマー型老年痴呆（老年痴呆）と考えやすく，アルツハイマー型痴呆（DAT）に次いで多い変性型痴呆であるDLBDは，せん妄が目立つ場合は脳動脈硬化症（脳血管性痴呆），知的低下が目立つ場合はDATと考えられてきた。

22. Fyn欠損マウスの恐怖条件付けにおける扁桃体の機能解剖学的解析

久保田統，佐藤甫夫（千大）
湯浅茂樹　　（同・二解）

正常マウスと情動異常を示すFyn欠損マウスに恐怖条件付けを行い，条件刺激により恐怖反応を起こさせ，興奮ニューロンの脳内分布パターンを検討した。Fyn欠損マウスでは，扁桃体におけるc-Fos陽性細胞の増加をみとめ，亜核の分布でも，正常マウスとの間に大きな差異がみとめられた。

23. Fyn欠損マウスのハロペリドールに対する異常反応性の解析

服部功太郎，佐藤甫夫（千大）
湯浅茂樹　　（同・二解）

Fyn欠損マウスでは，ハロペリドール投与による錐体外路症状の誘導や線条体NMDA受容体のリン酸化がみられなかった。したがって，ハロペリドール投与により生じる錐体外路微候の発現には線条体におけるFynによるチロシンリン酸化カスケードが関わっていることが示唆された。

24. セロトニントランスポーター遺伝子多型性と性格傾向との関連

熊切　力，児玉和宏，清水栄司
山内直人，岡田真一，野田慎吾
小松尚也，岡本英輝，佐藤甫夫
（千大）

日本人におけるセロトニントランスポーター遺伝子多型性をPCR法にて解析し，日本語版TCI，NEO-PI-Rにて評価した性格傾向との関連を統計学的に調査した。性格傾向の1部に多型性との関連を認め，性格の1側面が生物学的に規定される可能性が示唆された。

25. インスリン依存型糖尿病若年患者における精神障害－代謝コントロールと心理社会的機能の転帰－

中里道子，児玉和宏，佐藤甫夫
（千大）
佐藤真理　　（千葉県こども）
宮本茂樹　　（同・内分泌科）

精神障害を伴うインスリン依存型糖尿病（IDDM）患者16名を対象とし，精神症状に基づきSomatoform Type, Bchavioral Type, Psychotic Typeの3群に分類した。各群間の糖尿病代謝コントロール（HbA1c），心理社会的機能（GAF Scale）を評価した結果，Behavioral TypeのHbA1c値が優位に高かった（$p<0.01$）。GAF Scaleは，Psychotic Typeで精神科治療前後で著明に改善した。

26. 心内での単語の逆唱に際した局所神経細胞活動の変化－fMRIを用いて－

村上敦浩　　（村上病院）
山内直人，野田慎吾，岡田真一
小松尚也，児玉和宏，佐藤甫夫
（千大）

正常被験者7名を対象に，三音節単語を心内で逆唱及び順唱した時のf-MRIを撮影し，SPM96を用いて賦活部位を検討した。逆唱vs順唱のコントラストで，右小脳半球の一部などに賦活が観察され，同部位が，音韻の処理にも関与していることが示された。

27. パニック障害患者の対処様式について（続報）

日野俊明，竹内龍雄，池田政俊
花澤　寿，鈴木和人，林　竜介
（帝京大市原）
張　賢徳　　（同・溝口）
冨山學人（千葉市保健福祉局）

今回われわれは，85例のパニック障害患者の対処様式を，ラザルス式ストレスコーピングインベントリー（SCI）を用いて調査した結果，若干の新しい知見を得たので報告した。